

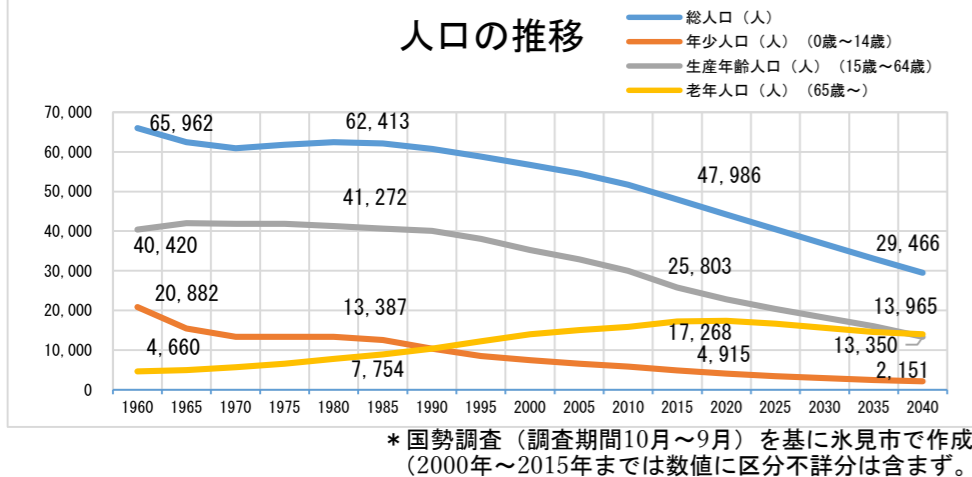
# 第2期「氷見市人口ビジョン」 概要版

## 1. 【現状】氷見市の人口

### 人口の現状分析

- 総人口は、1950年をピークに減少傾向となっている。特に、年少人口（0～14歳）の減少が顕著となっており、老年人口（65歳以上）は、増加傾向にある。
- 2015年国勢調査における本市の人口構造は、少子化の影響により、老年人口や生産年齢人口（15～64歳）に比べ、年少人口が少ない。
- 社会動態は長期的にマイナスの状態が継続している。
- 「15～19歳→20～24歳」では、進学等に伴う転出超過が際立って多く、卒業後のUターン率も低い。
- 「25～29歳→30～34歳」では、結婚や転職、住居の新築などがきっかけと考えられる市外への転出超過がみられる。こうした傾向は男性よりも女性の方に顕著に現れている。

### 人口の推移



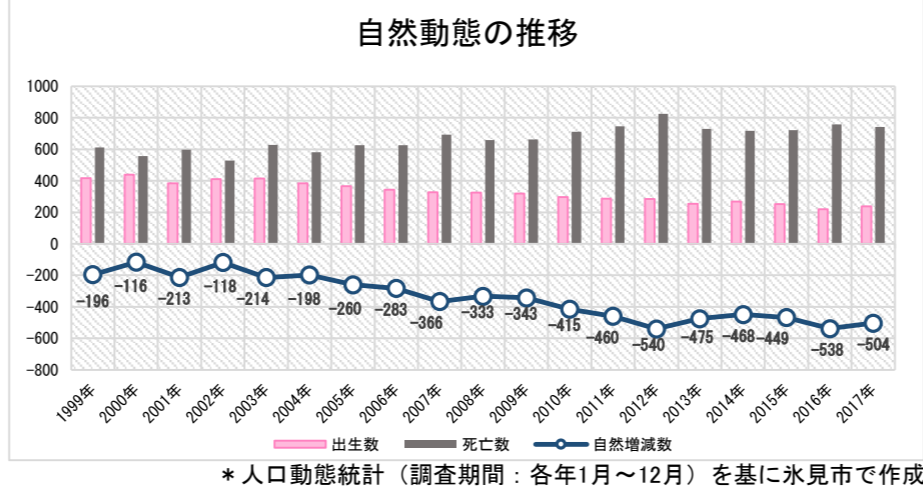
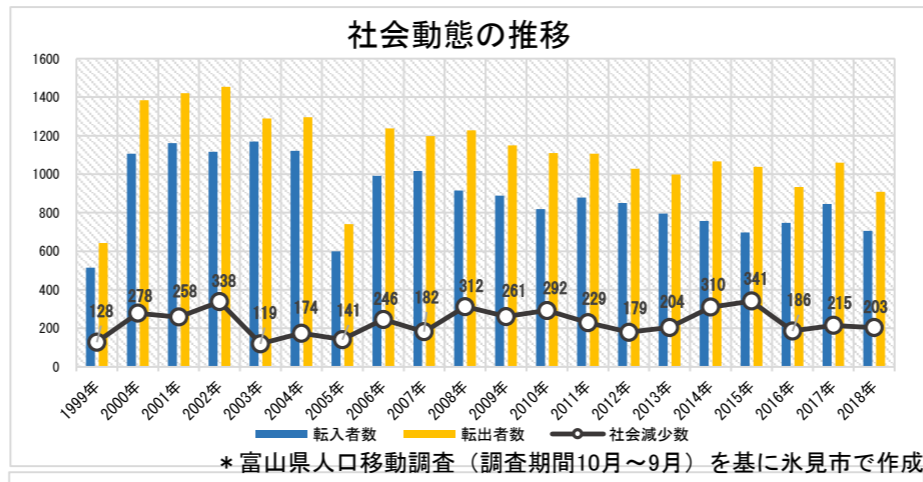
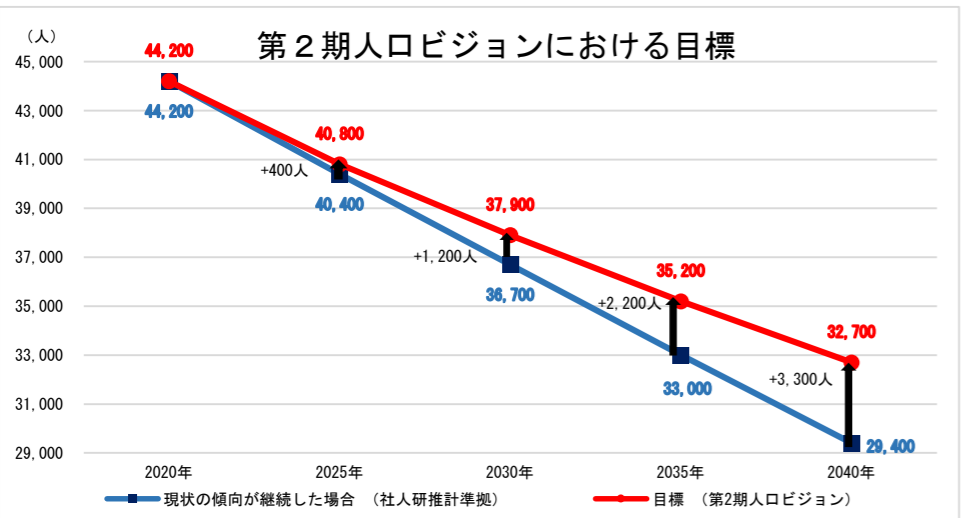
## 2. 【目標】人口の将来推計

### 人口の将来推計

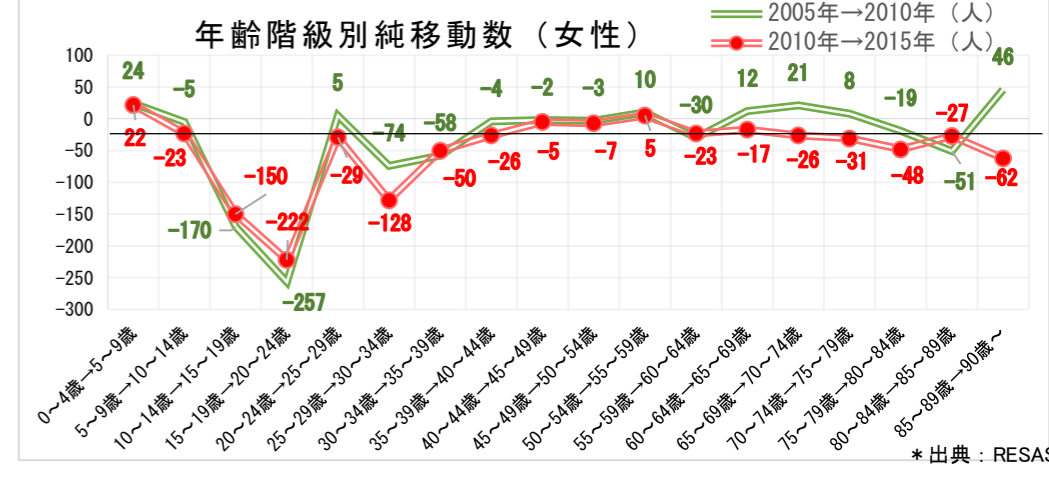
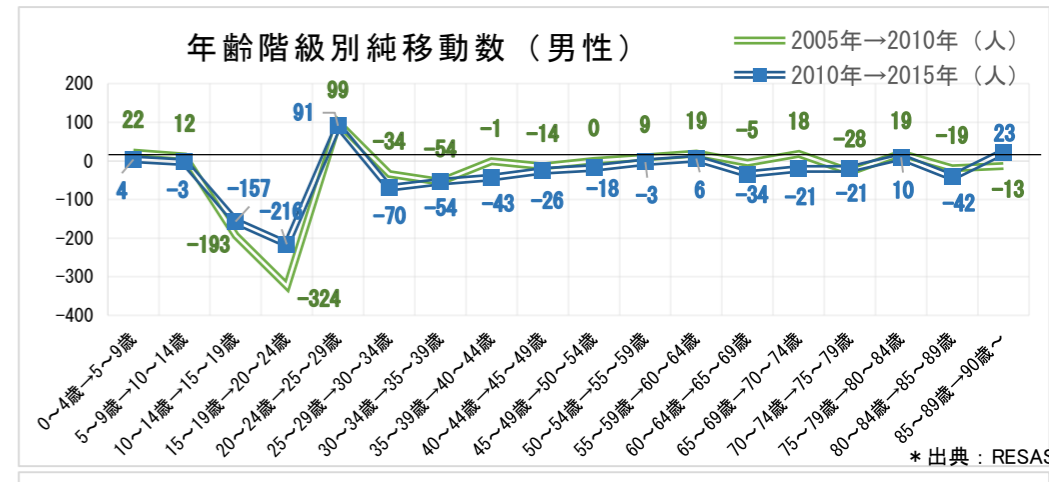
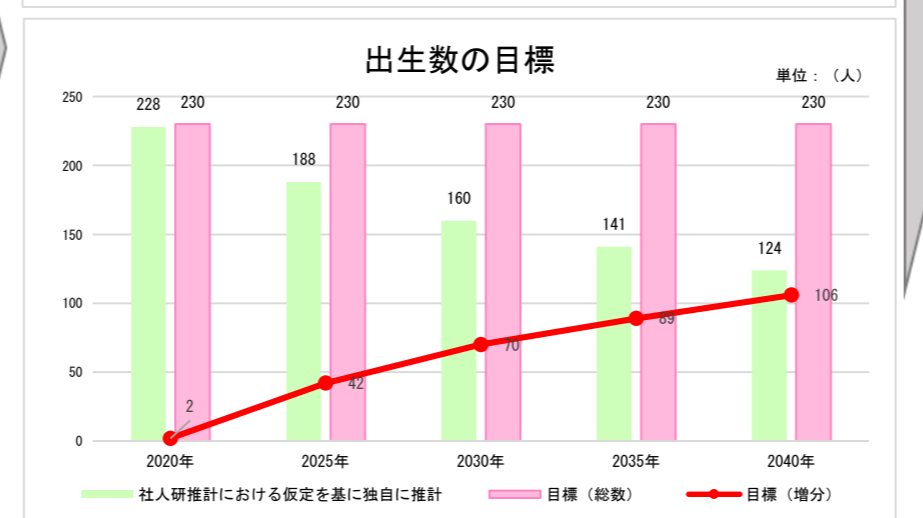
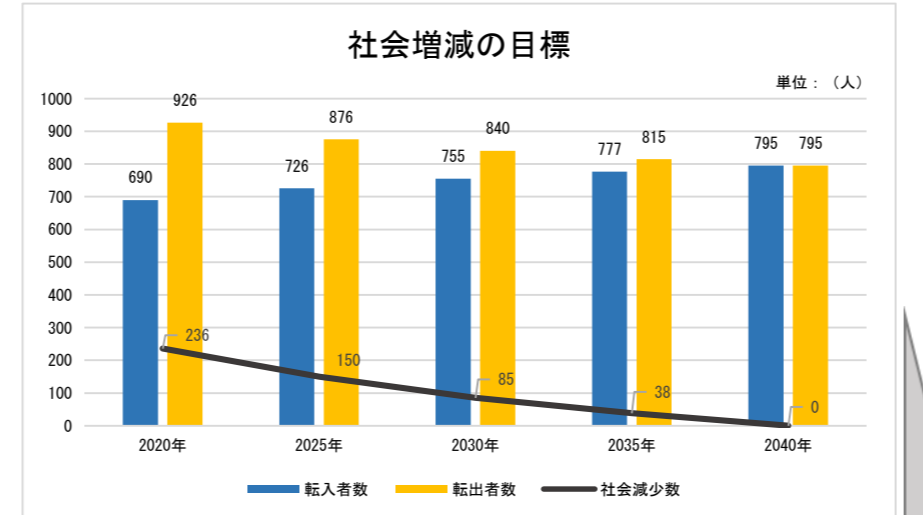
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計では、2040年には、現在の人口の60%程度まで減少する見込み。（2015年比）
- 年少人口では、43%程度まで減少し、生産年齢人口では54%程度まで減少し、高齢化率は、45%超えとなる見込み。
- 生産年齢人口1人で1人以上の老年人口を支える時代が来るとの推計

### 人口の将来推計（目標）

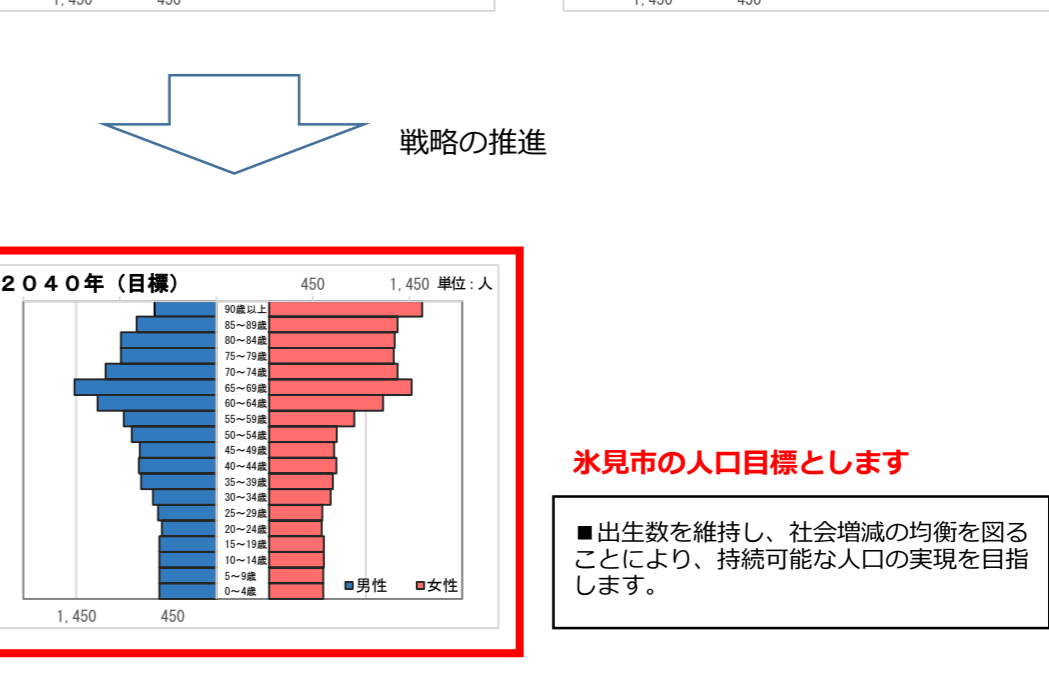
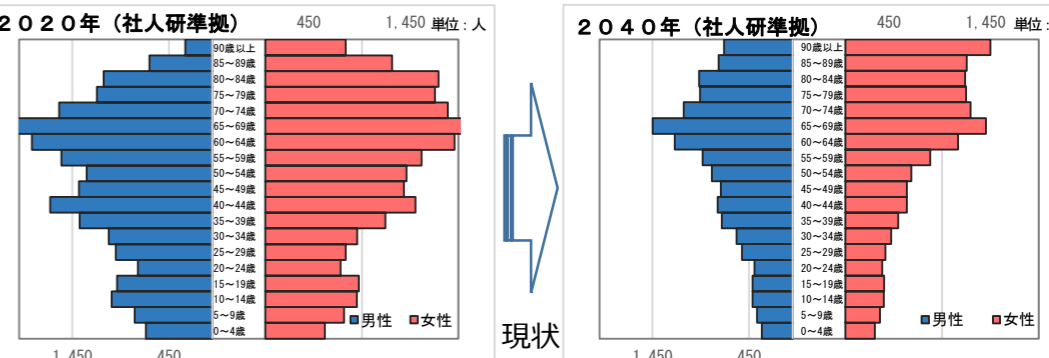
- 2040年 総人口 32,700人以上を確保
- 【自然増減】
  - ・ 出生数は、2020年以降は、各年230人を確保
- 【社会増減】
  - ・ 2040年までに転入・転出数の均衡



## 3. 【推計】将来における出生数および社会増減目標



## 4. 【イメージ】2040年の人口構成比



戦略の推進